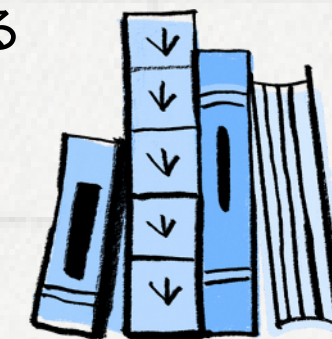


令和6年度熊本県 保育士等への巡回支援

事業の流れ

本研修の目的

- ・ 自園のコーディネートのスキルを高める
 - ▶ まずはご自身のチャレンジテーマを自園で
- ・ 園外（地域）も含めたコーディネーターの養成
 - ▶ 自園だけでなく近隣園との繋がり・育ち合いを意識する
- ・ 他園のコーディネートに入る場合のノウハウを学ぶ
 - ▶ お互いの園を見合い、気づきを共有し合う経験
- ・ 地域全体での保育の質向上
 - ▶ 地域全体に学びを広げるきっかけに



01

第1回（1月）

- ・ 研修の流れと意義
- ・ 子どもの主体性を尊重する保育について学ぶ
- ・ チャレンジテーマの決定

◎まずは自身・自園の保育を振り返り、これからチャレンジしてみたいことを考えます。



02

第2回（2月）※各園で1日ずつ設定

- ・ 互いに保育を開き合う（午前）
- ・ 振り返り（午後）
 - チャレンジテーマの進捗状況を語り合う
 - 保育の中にある「良さ」や「更にワクワクする保育にするためのアイデア」を共有

◎講師が助言するだけでなく、受講者同士が園を超えて共に保育を考えます！



03

第3回（3月）

- ・ 成果の発表会
 - ・ 取り組みのプロセスやそこからの学びを発表
- ◎自分たちの取り組みを整理し、プレゼンテーションします。取り組みから見てきた大事な視点を言語化しながら、他者に発信するノウハウを学ぶ機会にも！



episode1: 語る! 語る! 子どものこと



子どもの姿をベースとした保育を創造するためには、子ども一人ひとりのことを知ろうとすることが必要不可欠。取り組み過程では、子どものワクワクするエピソードを持ち寄り、沢山の語り合いが起きました。今まであまり子どものことを話す機会がないと感じていた保育者からは「この研修をきっかけに先生たちと沢山話せて嬉しかった」という声も! 対話が豊かな保育につながることを実体験を通して知ることができました。



episode 2: 保育環境の工夫がワクワクする子どもの姿に



当初、雑然と置かれていた絵本たち...表紙が見えるようにホワイトボードを使って置き方を見直してみました。すると以前よりも絵本に関心を持つ子どもの姿が増えただけでなく、1人ひとりのお気に入りの絵本が見えてきました。そこで更にお気に入り絵本が楽しめるような仕掛けを用意すると、遊びは次々と発展! ...これはほんの一例ですが、保育環境を見直し、工夫をすることの大切さを、参加者全員で学ぶことができました。

episode 3: 主体的な遊びの中で見えてきた1人ひとりの育ち



子どもの声から始まったラーメン屋さんごっこ。メニューには景品付きのお子様セットもあり、リアルなお店運営に拘って展開しています。そんな中でバイト役に指示を出しながら忙しそうにオーダーを取るのはAちゃん。実は、どちらかというと控え目で人前に立つタイプではなかったAちゃんですが、この遊びを通していきいきする姿が沢山見られるようになりました。「夢中になれる遊びとの出会い」が人が育つ上でどんなに大切か、改めて学ぶことができました。

episode 4: 保育が楽しい!いきいきと発信し始めた保育者たち



研修の最終回では、取り組みの中で学んだことを整理して発表します。印象的だったのはどの語り手も輝いていたこと。自分たちで考えたチャレンジテーマに基づいて、考え、工夫し、試行錯誤しながら取り組んだからこそ、語りたいことで溢れていました。そしてそれは聞き手にもしっかりと伝わり、ワクワクする保育の輪が会場に広がっていききました。保育者自身が主体となって取り組んだからこそその姿でした。

チャレンジテーマに取り組む中で見えてきたものがたり



受講した2園は、互いの園を開き合い、その園にある良さを言語化したり、更にワクワクする保育になるためのアイデアを考えます。決して「評価し合う」公開保育ではなく、「共に味わい、共に考える」機会として、保育を開き合うのです。自園だけではどうしても行き詰まってしまうことも、他園の保育者の発想から新たなヒントを得ることもでき、地域で学び合うことの意味を実感する機会にもなっています。